

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	<p>⑳【学校・家庭・地域での日頃の備え】</p> <p>避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。</p>	<p>教科 (保体・総合的な学習の時間)</p>
<p>【題材】 地域、保護者とともに考える防災学習の推進 ～地域防災マップの検証を通して「想定外」を「想定内」に～</p> <p>【対象】 全校生徒・保護者</p> <p>【実践の概要・詳細】</p> <p>(1) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな地震に対応し、迅速かつ的確に避難場所に移動することができるようにするとともに、主体性を持って避難するという意識を持たせる。 ・地震の発生や津波の恐れがある場合及びその他緊急に避難しなければならない場合の対応について、野田村地域防災マップを用いて確認する。 ・家庭や地域、関係機関とともに、地震や津波災害に対する意識を高め、体制整備の構築、推進を図る。 <p>(2) 実践の詳細</p> <p>①平成25年度防災教育に係る学校訪問事業 防災教育ならびに防災に係る授業実施についての講義 岩手県教育委員会森本晋也指導主事を招聘</p> <p>②初期対応学習 緊急地震速報を聞いたときに、自分の判断で自分の身を守る対応行動を習得させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報による対応訓練 <p>③二次対応学習 各地区における津波防災マップを用いた事前危機管理学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前準備 各自に、自分の地区内の危険な場所を見つけておく。 地区長等にカメラを貸与し、危険箇所等の写真を撮影しておく。 ・地区ごとに分かれ、各地区の津波防災マップに危険箇所、避難場所、避難経路を記入していく。 ・保護者も各自の地区に入って一緒に考える。 <p>また、地域住民の意見を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有識者より講評をいただく。 防災マップ策定に係わられた、岩手大学工学部小笠原准教授、松林助教から講評をいただく。 		



【授業の展開】

1 ねらい

- (1) 自分たちの住む地区の防災マップを検証し、自分たちの視点で改善する。
- (2) 防災に対する保護者の思いを知る。

2 展開

段階	学習の流れ	生徒の活動	留意点
導入	1 ねらいの説明 2 学習課題の説明 学習課題 1 防災マップを使って、自分たちの地区の危険個所を確認しよう。 2 防災に対しての親の願いを知ろう。	1 意識付け 2 学習課題を確認する。	
展開	3 危険個所の確認 ①生徒の調査から ②校外班長の写真から ③保護者の意見から 4 防災マップへの書き込み 5 まとめ 6 防災に対する保護者の考え	3 教師が指示を出しながら、地区長が進行する。 4 地区長を中心に防災マップへ書きこむ。 ①各自が危険個所を発表し、マップに書き込む。 ②地区長が写真を貼る。 ③地区の保護者から意見をもらう。 5 発表する ①地区長が地区内で発表する。 ②全体での発表は、展示をもって替える。 6 保護者の考えを聞く	・事前に地区長が調査して写真に撮ってくる。 ・事前に全員が危険個所についてリストアップしておく。 ・保護者の参加を依頼しておく。 ・担当教員が話し合いに加わり、方向性を指導する。 ・山間部の地区は、津波より、集中豪雨や土砂災害について想定する。
終末	7 講評	7 講評を聞き、今日の授業の確認をする。	* 岩手大学工学部 小笠原先生、松林先生

生徒の感想

- ・私達の地区は川が流れていて、増水などが危険だと感じた。危ない場所を通る時は気を付けるようにしたい。
- ・自分の身は自分で守ることが大切だと思った。
- ・自分たちの住んでいる地域にも、いろいろな危険個所があることがわかった。

まとめ

- ・本校では「私たちが野田村の太陽になろう」を合言葉に、自分たちで地域を元気にしようとする活動、いわての復興教育の「いきる」「かかわる」という価値を中心とした取組を進めてきた。
- ・本年度は「そなえる」部分、自然災害の理解や防災や安全の部分に踏み込んで取組む必要性を感じ、活動を進めた。
- ・野田村は、県内トップを切って地域防災マップを作成し、全戸に配布した。防災マップを持ち寄り、中学生が、自分なりの視点で危険個所を選定し、起こりうる危険を予想するという活動、そして保護者とともに検証する作業は防災意識を高める上で重要な意味を持つこととなった。

岩手

野田中学習会



写真添付し書き込む

地区ごとの8班に分かれ、事前に保護者が撮影した危険個所の写真を防災マップに貼り付けて、どんなことが起こりうるかを考えた。海沿いの地区では助産婦がまたまできていたなどの理由から津波の危険性が指摘され、山あいは土砂崩れや樹木が心配の意見が出された。このほか、家の壁が地震で揺れる、工事現場のトラックが危ないなどの声もあつた。保護者も生徒の目で見て危険個所を指摘して公開し、地域づくりがすすむ。

生徒の目で防災マップ

野田村立野田中学校(藤田校長)は、生徒・保護者の30名参加して活動し、100人への配布に100枚の防災マップを完成させた。同校は生徒が保護者が撮影した危険個所の写真を防災マップに貼り付けて、どんなことが起こりうるかを考えた。海沿いの地区では助産婦がまたまできていたなどの理由から津波の危険性が指摘され、山あいは土砂崩れや樹木が心配の意見が出された。このほか、家の壁が地震で揺れる、工事現場のトラックが危ないなどの声もあつた。保護者も生徒の目で見て危険個所を指摘して公開し、地域づくりがすすむ。

平成 25 年 10 月 11 日 岩手日報

保護者・地域の感想
 授業の中での保護者の発表から
 ・今後どのような災害が起こっても、何としても生き延びてほしい。
 ・普段から「ここで何かあったらどこに逃げればいいのか」と考えるだけでも意識づけになる。